

鉄道

すでにあるものを賢く使ってストック効果を伸ばすこともできます。

空港の運用方法見直しで発着枠の拡大

羽田空港では現在、飛行経路の見直しなどを進めている。滑走路上の競合を減らすだけでなく、飛行経路を見直すことで、新しい滑走路を整備することなく、年間約4万回の発着枠を拡大できる見通し。

鉄道の整備は、地域の人の交流を大きく促し、まちの経済や生産性を高めるチャンスにもなります。

新しいまちづくり

北陸新幹線の開通を契機に、富山県黒部市に生産拠点を持っていたYKK株式会社は、さらに本社機能の一部を東京都から黒部市に移転。市とも協力して、自然エネルギーを活用した居住地区「パッシブタウン」を建設するなど、大規模なまちづくりを進めている。



空港

社会資本の蓄積が暮らしと経済を支えている

まちにはたくさんの方々の社会資本があります。道路、橋、トンネル、堤防、港湾、鉄道、空港、上下水道など、私たちの毎日の安全や生産活動は、多数の社会資本の蓄積によって支えられています。

高速道路や放水路では、その本来の役割を果たしつつ、関連してさまざまな効果をもたらしていました。

道路は移動時間を短縮し、人と物の交流を促進します。その結果として多様な効果が生じます。

雇用の拡大

日本海沿岸東北自動車道の整備を見込んで、航空機内装品の世界トップメーカーである株式会社新潟シャムコが新潟県村上市に進出。地元での雇用が大幅に増加した。



道路

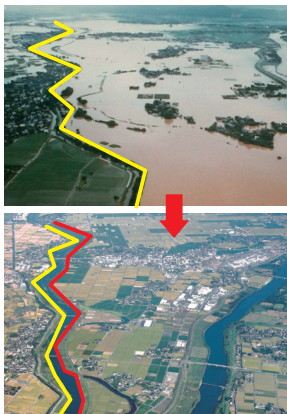
このような関連した効果は、必ずしも計画・整備の段階で予定されているわけではありません。道路であれば、まず渋滞の緩和や経路の利便性が重視されます。

しかし、社会資本はさまざまに利用できるという視点をつくる側・使う側の双方がそれぞれ持つことで、その効果をさらに引き出し、暮らしを豊かにしていくことができます。

あなたのまちの社会資本は、どんな活用が考えられるでしょうか。



ストック効果



洪水被害が頻発していた熊本県嘉島町の加勢川では、平成11年に堤防が完成して以来、浸水被害が発生していない。安全性が大きく向上し、ショッピングモールや商工業団地が進出した。平成11年から現在までに、地域の商業事業所は2倍、第3次産業の従業者は4倍に伸びている。

堤防の整備とまちの活性化

河川の安全が高まると
住民の安心だけでなく、
企業進出が
進むこともあります。



河川



環境改善は、
まちの魅力を向上させ、
観光を増進するにつに
つながります。

水質改善で観光客数の増加と 高齢者の雇用拡大

昭和40年代に深刻な水質汚濁が進んだ島根県松江市の堀川は、平成8年から宍道湖の水を導いて川の水質改善を開始。平成9年には遊覧船が就航するほどの清らかさを取り戻し、観光スポットとして定着。船頭を地域の高齢者が行うなど雇用対策にも貢献した。



港湾



港湾整備は物流の効率化を図り、
新たな企業活動の場の
提供につながります。

港湾と港湾への 経路整備が産業を活性化

宮崎県日向市では細島港の岸壁整備や東九州自動車道の整備により、大手製材メーカーである中国木材株式会社が進出。地域の木材を輸出する新規ビジネスにより、木材の輸出货量・最大価格ともに約2倍に伸び、地域の林業再生と雇用増加につながった。

